
22話 静かなる眠りへ

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

22話 静かなる眠りへ

【Nコード】

N2267K

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

シヨートシヨートです。

観測史上始まって以来の豪雪が降っている。

太陽が昇っても勢いの衰えない雪に、スリップ事故を起こした車と慣れない雪に足をとられて転倒して病院に担ぎ込まれる人々はあとを断たない。

そして昼過ぎには交通は完全にマヒし、夕方になり勢いはますます激しさを増した。

高圧電線は降り積もった雪の重みに耐えかねて断線し、水道は凍って使えず、各都市は完全に孤立してしまった。

ようやく重い腰を上げた政府が非常事態宣言を発令したが、時すでに遅し。

自衛隊は出動すら困難な状況で救助活動すらできず、人々は降り続く雪に、迫る寒さと暗闇の中で不安と恐怖に押しつぶされていく。

その全てを見ている怪物がいた。

目も鼻も口もなく手足すら定かではない、はるか昔から人間に恐れられてきた、空いっぱいを覆う真っ黒な巨大な怪物だ。

この被害は黒い怪物自身が起こしたものだとは分かってはいるが、何も好んでこんなことをしているわけではない。怪物をここまで成長させたのは、他でもない人間自身なのだ。

怪物は困り果てている人間の様子を憐れんで、何とかならないか都市を呑み込んで眼下いつぱいにうず高く積もる真っ白な怪物に相談したが、白い怪物もまた、どうにもならないと答えるほかない。

真っ黒の怪物と真っ白の怪物になす術はなく、ただその場所に体を横たえて、深く深く静まりゆく人々の呼吸が小さくなっていくのを見守るしかなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2267k/>

22話 静かなる眠りへ

2010年10月15日09時16分発行